

第一章 守る――

「犯罪や事故のないまちに住みたい」地域の安全は住民みんなの願いです。安全安心なまちづくりのため、行政や地域ではどんな取り組みが行なわれているのでしょうか。

毎 日のように、犯罪や交通事故などの事件を耳にします。平成21年の熊本県の刑法犯認知の発生状況を見てみると、全体としては前年より減少していますが、この菊池地域は県内でも犯罪率が高く、盗難や万引きなどの犯罪が多く発生しています。

菊池地域の各市町では、住民の皆さんが安全に安心して暮らせる環境にするために、少しでも危険を減らそうと、不審者対策や交通事故防止のための見守りパトロールなどに取り組んでいます。また、各警察署でも、事件・事故を未然に防ぐためのパトロールやさまざまな相談を受け、活動しています。

しかし、その活動にも限界があり、行政や警察だけの力ではすべてをまかなうことはできません。それをカバーしているのが、地域で活動している防犯ボランティア団体です。地域により身近で、地域のことをよく理解してい

るボランティア団体の皆さんが、子どもたちの登下校時の見守りや声かけなどを行なうことで地域の安全はさらに守られています。

そ の中で、今年1月に発足した合志市の「須屋コミュニティパトロール隊」は、県の事業である「安全なまちづくり推進モデル事業」を受けて、県北地域のモデル地域として活動しています。この隊では、コミュニティ内に居住する家庭からお金を集め、犯罪の抑制や防止のために、青色パトロール車で須屋コミュニティ内を巡回しています。

このように、わたしたちの住むまちには、地域のため、みんなのために頑張っている人たちがたくさんいます。その人たちに支えられ、わたしたちは安全に安心して暮らしていくことができるのです。そこで第一章では、被害者を出さないための取り組みをしている団体と警察署に防犯に対する思いを語ってもらいます。



取り返しがつかない大切なものがそこにあります

菊池地域合同特集 この特集は菊池市・大津町・菊陽町・合志市の合同特集です。地域的につながりの深い2市2町が同じテーマを一斉に掲載することで問題を共有し、より効果的な啓発の機会となることをねらいとしています。

受け継がれるこの思い「自分たちの地域は自分たちで守る」

須 屋コミュニティは、合志市の人口の約20%を占めており、住宅地も多く、近年人口も伸び続けている地域です。この地域の9つの区が協力して今年1月に「須屋コミュニティパトロール隊」を発足しました。それぞれの区には以前から自主防犯パトロール団体がありましたが、より効果的に各地区の防犯パトロールを行なうために、県の事業である「安全なまちづくり推進モデル事業」を受託し、活動しています。

青色パトロール車で巡回を始めてから、その区域での不審者の出没情報や落書きなどはなくなり、その効果を実感しています。しかし、市全体で取り組んでいかなければ、根本的な問題は解決できないと思っています。

活動内容は、徒歩や青色パトロール車を使った登下校の見守りや危険箇所の点検などです。横断歩道で旗を持って誘導していると、子どもたちから元気にあいさつしてくれることがあります。それ

「自分 分たちの地域は自分たちで守る」。それぞれの区で活動していた須屋コミュニティの区長たちは、この思いでつながりました。活動範囲は広く



須屋コミュニティパトロール隊
(写真左から) 隊長 増田英雄さん
前隊長 辻 貞輝さん



菊池警察署 刑事生活安全課
いのうえ 芳博 係長

いかに地域の手助けになるか―皆さんには、普段の生活の中でできる「防犯」をしてもらいたいと思います。警察もそのためのお手伝いをしていきたいと思っています。

日常の中でも防犯意識は役に立つ

県内の多くの地域が防犯ボランティア団体を立ち上げ、交通誘導や登下校時の見守りなどの活動が行なわれています。このような防犯団体の活動はとても頼もしいですね。警察でできることにも限界があるので協力し合えることは大変助かります。

個人でも防犯活動を行なうことは可能です。例えば、見慣れない車が長時間止まっていると不自然に感じたら警察に相談することや子どもが一人で歩いているのを見かけたときに覚えておくことは立派な防犯活動なのです。一人でいる子どもは犯罪に巻き込まれやすくなります。もしも犯罪が起きてしまった場合、その目撃情報が必要な手がかりになることがあるのです。